

令和5年3月6日

報道ご関係者各位

《同時資料提供》
大阪府政記者会
大阪市政記者クラブ
大阪経済記者クラブ

大阪府 府民文化部 文化・スポーツ室 文化課
大阪市 経済戦略局 文化部 文化課
公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

令和4（2022）年度大阪文化祭賞受賞者の決定、および贈呈式のご案内

大阪府、大阪市及び公益財団法人関西・大阪21世紀協会では、芸術文化活動の奨励と普及を図り、大阪の文化振興の機運を醸成することを目的に、大阪府内で上演された公演の中から優れた成果をあげたものに対して「大阪文化祭賞」を贈呈しており、今年で59回目の開催となります。

このたび、令和4（2022）年に大阪府内で開催された公演を対象に、独創性に富み、企画・内容・技法が総合的に優れていること等について審査をいたしました結果、各賞を決定いたしました。

つきましては、「令和4（2022）年度大阪文化祭賞」各賞受賞者への贈呈式を下記のとおり開催し、受賞者による受賞記念公演も実施いたします。

報道関係の皆様方には何かとご多端のおり恐縮ですが、当賞の趣旨に鑑み、広く告知・ご取材等のご協力を賜りたく、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

1. 令和4（2022）年度大阪文化祭賞 贈呈式 開催概要

- (1) 日時 令和5（2023）年3月13日（月）14：00より
（13：30受付開始、13：50開場）
- (2) 会場 NCB会館 2階 淀の間
大阪市北区中之島6丁目2-27 TEL 06-6448-6036
- 14：00 開式・あいさつ
14：15 賞の贈呈
15：00 受賞者記念公演
奈良ゆみ 様
前田妃奈 様
15：25 ・記念写真撮影
15：40 ・閉式

2. 令和4（2022）年度大阪文化祭賞 受賞者

大阪文化祭賞

・花柳 與

「花柳與卒寿記念舞踊会 一扇会」の舞台の成果

・桂 あやめ

「40周年あやめの会」の成果

・奈良 ゆみ

「祝祭の夜 サティとフランス六人組」の成果

大阪文化祭奨励賞

・成田 奏

「調和会 和のしらべ特別公演『道成寺』」の舞台の成果

・吉田 玉翔

「文楽若手会 絵本太功記」の舞台の成果

・桂 吉坊

「吉坊ノ会」の高座の成果

・劇団壱劇屋

「Supermarket!!!」の舞台の成果

・日本バレエ協会関西支部

「第48回バレエ芸術劇場『パキータ』・『フェアリードール』」の舞台の成果

・前田 妃奈

「関西フィルハーモニー管弦楽団 第333回定期演奏会」の成果

※副賞賞金として、大阪文化祭賞20万円、大阪文化祭奨励賞5万円がそれぞれ贈られます。
※各受賞者の受賞理由・略歴等は別添資料をご参照ください。
※部門順及び五十音順で表記しています。

《各受賞者の受賞理由・略歴》

大阪文化祭賞 3件

花柳 與

「花柳與卒寿記念舞踊会 一扇会」の舞台の成果

(はなやぎ あとう/「はなやぎあとうそつじゅきねんぶようかい いっせんかい」のぶたいのせいか)

(第1部門：伝統芸能・邦舞・邦楽)

関西歌舞伎で役者として舞台上で研鑽を積んだ時間、舞踊家としての鍛錬、これまでの全てが結びついた唯一無二の表現は観る人の心を震わせる。この度の公演では自らが振付した「長唄 菊の泉」「常磐津 古山姥」を極限まで削ぎ落とした動きで披露した。それは「役の心のままに淡々と在る」という氏の目指す舞踊表現の到達点を示すものであった。とりわけ「古山姥」は母の果てしない情愛と神秘性が際立っていた。

一扇会全体としては一門の他、各流派も交えた見応えある構成で、大阪を拠点とする女流義太夫のメンバーが参加して「櫓のお七」を上演するなど大阪ならではの趣向も見られるものであった。

大阪を拠点に活躍、後進を育成し続けている氏の存在は流派を超えて在阪舞踊家の精神的支柱と言っても過言ではなく、卒寿を迎えなお現役で舞台上に立ち続ける姿はあらゆる舞台人の理想である。その功績を称えろと共に、更なる芸の極みを示し続けていただきたい。



【略歴】

- 昭和 8(1933)年 大阪市で生まれる。5歳の時、花柳芳喜美に入門。
- 昭和 15(1940)年 6月関西歌舞伎、中村魁車丈に入門、車圓を名乗る。
- 昭和 23(1948)年 四世花柳芳次郎に入門、芳由次郎を名乗る。
- 昭和 27(1952)年 師範を許される。第1回「銀扇会」を開催。
- 昭和 30(1955)年 関西歌舞伎を離れ花柳龍雅と改名。
- 昭和 38(1963)年 花柳與に改名。会の名称も「一扇会」に。
- 昭和 47(1972)年 「綱館」で大阪文化祭本賞を受賞、三人の会で季刊賞助演賞受賞。
- 昭和 54(1979)年 グリーンリボン努力賞受賞。
- 昭和 63(1988)年 「阿吽」にて大阪文化祭本賞受賞。
- 平成 11(1999)年 大阪市民功労賞受賞。
- 平成 12(2000)年 與素踊りの会にて芸術祭優秀賞受賞。
- 平成 14(2002)年 第30回一扇会、「紀州道成寺」にて大阪文化祭グランプリを受賞。
- 平成 25(2013)年 「古山姥」にて芸術祭大賞を受賞。

桂 あやめ

「40周年あやめの会」の成果

(かつら あやめ/「よんじゅっしゅうねんあやめのかい」のせいか)

(第2部門：現代演劇・大衆芸能)

五代目桂文枝に弟子入りを願い、叶った昭和57(1982)年6月5日。あやめは男性中心の落語界に飛び込み、上方で2人目の女性落語家として奮闘。試行錯誤を重ねながら、女性目線で描いた新作落語や古典の改作で自身の道を切り開いてきた。また落語以外でも音曲漫才や宝塚歌劇の演目を上演する「花詩歌タカラヅカ」などを企画し、人気を集めてきた。

入門40年を迎え、入門記念日に開催した「40周年あやめの会」では、コロナをテーマにした自作の新作落語「禁酒ホテル」、古典落語の噺の途中で宙乗りにも挑んだパノラマ落語「龍宮界竜都」、山崎豊子の短編小説を落語にした「船場狂い」の三席を演じ、落語家・桂あやめの40年の集大成を見せた。新作落語では「時代」を盛り込んで笑いを呼び、パノラマ落語では斬新な趣向が光った。また、文芸物では笑いも交えながら、しみじみ聞かせた。

新しい出発点でもある記念すべきこの落語会とこれまでの功績を称え、大阪文化祭賞を贈呈する。



【略歴】

昭和62(1987)年 第8回「ABC漫才落語新人コンクール」優秀新人賞。

平成6(1994)年 第1回「きらめき賞」。

平成8(1996)年 第14回「咲くやこの花賞」大衆芸能部門 落語。

平成12(2000)年 「大阪府女性基金プリムラ」奨励賞。

平成14(2002)年 「文化庁芸術祭」演芸部門優秀賞。

【映画】「あなたのためならどこまでも」平成21(2009)年 脚本・監督

【ドラマ】NHK朝の連続テレビ小説「芋たごなんきん」平成18(2006)年

【書籍】「艶姿なにわ娘」東方出版

奈良 ゆみ

「祝祭の夜 サティとフランス六人組」の成果

(なら ゆみ / 「しゅくさいのよる さていとふらんすろくにんぐみ」のせいか)

(第3部門：洋舞・洋楽)

ソプラノ歌手の奈良ゆみによる長年にわたる活動の集大成と言うべき内容。「祝祭の夜」と題されたコンサートには 1920 年代のパリで書かれた歌が多数集められ、奈良が得意としてきたサティだけでなく、デュレ、オネグル、ミヨー、タイユフェール、プーランク、オーリックといった多彩なフランスの作曲家の作品が並んだ。

作品のキャラクターが十分に尊重された上で、奈良の持つシャーマニスティックというべき強烈な個性を発露した歌唱が立ち現われ、それらが相乗効果をもって聴く者に強く迫るといふ稀有な音楽体験を現出させた。ピアノを弾いた寺嶋陸也の積極的な演奏の功績も大きい。大阪出身の奈良はパリと日本で長年の活躍を続けてきたが、これまで培われた方法にとどまらず、さらに新たな表現を獲得している。

今の彼女の持つ歌唱の可能性が最大限に発揮されたこの演奏会を高く評価し、ここに大阪文化祭賞を贈呈する。



(撮影：Brigitte Enguerand)



(撮影：長島義明)

【略歴】

相愛大学卒業後、仏政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院に学びメシアンに注目される。以後パリを拠点とし仏音楽の演奏活動を欧州各地で展開。

西鶴の『好色一代女』を使ったジャン＝クロード・エロワの作品や、松平頼則のモノオペラ『源氏物語』の歌い手として、日本の音楽・文化が西洋の現代音楽と結びつく可能性を明示した。

メシアン生誕百年記念で『ミのための詩』(Pf.ムラロ)を歌う。日本ではドビュッシー『ペレアスとメリザンド』(フルネ指揮、都響)、プーランク『人間の声』(ワッセルマン演出)、松平頼則作曲・笈田ヨシ演出『葵の上』の他、大阪モーツァルトサロンでは平成13(2001)年より『フランス歌曲全貌シリーズ』のリサイタルが開催されている。

CD『ドビュッシー歌曲集』(Cypres)は仏音楽誌 Le Monde de la Musique 紙で最高推薦盤に挙げられている。また、メシアン『ハラウィ』は『メシアン全集』(Deutsche Grammophon)に収められている。

大阪文化祭奨励賞 6件

成田 奏

「調和会 和のしらべ特別公演『道成寺』」の舞台の成果

(なりた そう/「ちょうわかい わのしらべとくべつこうえん『どうじょうじ』」のぶたいのせいかけ)

(第1部門：伝統芸能・邦舞・邦楽)

能楽師小鼓方にとっての関門の曲「道成寺」に初めて挑み、執心の末に蛇体に化した女性の物語を格調高く描き出して感銘を与えた。見せ場の舞事「乱拍子(らんびょうし)」は掛け声と強く打ち込んだ小鼓の音との間(ま)が的確。シテ方との息も合って緊張感のある舞台を作り上げ、続く急之舞(きゅうのまい)で曲調の変化を楽しませた。同世代の囃子方と行っている能楽の普及活動も称えたい。



【略歴】

能楽師 小鼓方 幸流。平成 8(1996)年生まれ。兵庫県神戸市出身、大阪府大阪市在住。現在大阪を拠点に全国各地で活動。

曾和博朗・曾和正博及び父成田達志に師事。

平成 19(2007)年 「田村」
平成 28(2016)年 「翁 脇鼓」
令和 2 (2020)年 「石橋」
令和 3 (2021)年 「猩々乱」
令和 4 (2022)年 「道成寺」

大阪能楽養成会卒業。公益社団法人能楽協会会員。

一般社団法人阪神能楽囃子連盟調和会会員。

舞台活動の他、海外公演やワークショップ等、能楽の普及活動も積極的に行っている。

趣味はギター、サーフィン。

能楽囃子ユニット「ナニワノヲト」主宰。

吉田 玉翔

「文楽若手会 絵本太功記」の舞台の成果

(よしだ たましょう/「ぶんらくわかてかい えほんたいこうき」のぶたいのせいか)

(第1部門：伝統芸能・邦舞・邦楽)

「文楽若手会」で時代物の大曲「絵本太功記」の武智光秀を遣った吉田玉翔氏は、主君を討った光秀の信念と苦悩を輪郭の大きな迫力ある演技で体現、大きな感動をもたらした。立役を得意とする一門の伝統をしっかり継承したといえる。自主公演「文楽夢想 継承伝」を企画するなど文楽の発展にも尽力、今後の活躍が一層期待される。



【略歴】

高知県土佐清水市出身。

平成 5(1993)年 11 月、初代吉田玉男(人間国宝、文化功労者)に入門、文楽協会研究生となる。

平成 7(1995)年 4 月、吉田玉翔と名のり国立文楽劇場で初舞台。

重要無形文化財総合指定保持者。文楽協会賞など多数受賞。

国立劇場、国立文楽劇場で年間 220 日の公演、文楽協会での地方公演、海外公演の他、地元高知で平成 12(2000)年より【翔の会】を立ち上げ定期的に公演を開催。小中学生に文楽人形の指導などを行い文楽普及に努める。

また、能・狂言・落語・オペラなどの他ジャンルとのコラボレーションを行うなど、古典芸能に新たな風を吹き込む挑戦を続けている。

平成 25(2013)年、高知県観光特使も務め、令和元(2019)年高知県土佐清水観光特使にも就任、文化発信を精力的に行う。

令和 3(2021)年、『文楽夢想 継承伝』を立ち上げ開催。代表を務める。同企画は関西元気文化圏賞特別賞を受賞。

桂 吉坊

「吉坊ノ会」の高座の成果

(かつら きちぼう/「きちぼうのかい」のこうざのせいか)

(第2部門：現代演劇・大衆芸能)

桂吉坊が平成 18(2006)年から開催している「吉坊ノ会」。今回は大晦日の夜の寺を舞台にした「除夜の雪」やハメモノが多く入る珍品の「深山隠れ」に独自の色合いを加えて鮮やかに演じた。若手落語家との落語のリレーや、噺の流れから太神楽曲芸をゲストに招く構成も光った。所作の美しさや間合い、口調の良さが重ねてきた研鑽を物語っていた。



【略歴】

昭和 56(1981)年 兵庫県西宮市生まれ。

平成 11(1999)年 1月10日に、桂吉朝に入門。

3月14日に「岡町落語ランド」において「東の旅～煮売屋」で初舞台。

平成 12(2000)年 4月から桂米朝のもとで内弟子修業。

平成 15(2003)年 4月に内弟子を卒業。以後、古典落語を中心に舞台を重ねる。

平成 19(2007)年 G2プロデュースの舞台「地獄八景 浮世百景」で役者としてもデビュー。

平成 20(2008)年 公開の映画「能登の花ヨメ」では謎の旅人として映画デビュー。

平成 23(2011)年 咲くやこの花賞大衆芸能部門受賞。

平成 24(2012)年 第49回なにわ芸術祭新人賞。

平成 26(2014)年 第9回繁昌亭大賞奨励賞。

平成 28(2016)年 国立演芸場 花形演芸大賞 銀賞。

平成 31(2019)年 国立演芸場 花形演芸大賞 金賞。

『桂吉坊がきく藝』ちくま文庫

古典落語を中心に「吉坊ノ会」や主催の落語会を各地で開催。また、古典芸能の案内役として、日本舞踊「五耀會」、天王寺楽所雅亮会公演や能、歌舞伎、文楽などのナビゲーターを数多く務めている。

劇団 壱劇屋

「Supermarket!!!」の舞台の成果

(げきだんいちげきや/「すーまーけっと!!!」のぶたいのせいか)

(第2部門：現代演劇・大衆芸能)

アーティスティックな身体表現を多用しつつも、娯楽性の高い舞台に挑み続ける壱劇屋。『supermarket!!!』では、一軒のスーパーマーケットを舞台に、関西で活躍する9人の作家の新作短編を一挙上演。ライトな喜劇から不条理劇までこなす、劇団の幅広い表現力を発揮しただけでなく、現在の関西の作家たちの多様性とレベルの高さを示すことに成功した点も含めて評価した。



(撮影：河西沙織)

【略歴】

高校演劇全国大会出場メンバーで平成20(2008)年に活動開始。枚方の河川敷から始まり、ルミエールホール(門真)に拠点を移し、10周年記念公演では森ノ宮ピロティホールで上演するほどに成長した、関西から全国へ向けて発信するエンタメ劇団。

令和元(2019)年には東京支部も発足し、大阪の壱劇屋ではパントマイムを使った世にも奇妙なエンターテイメントシリーズを、東京の壱劇屋では言葉を使わず殺陣のみで表現するWordless 殺陣芝居シリーズをと、東西に分かれて特色の違う作品を発表している。

また観客とツアーをしながら物語を進めるイマーシブシアターや、ネットを介した観客参加型オンライン公演、屋外での作品発表など、従来の枠を飛び越えてさまざまなアプローチで演劇を探究している。

日本バレエ協会関西支部

「第48回バレエ芸術劇場『パキータ』・『フェアリードール』の舞台の成果

(にほんばれえきょうかいかんさいしぶ/「だいよんじゅうはちかいばれえげいじゅつげきじょう『ぱきーた』・『ふえありーどーる』のぶたいのせいか)

(第3部門：洋舞・洋楽)

関西のバレエ団体が力を合わせて大作に取り組む「バレエ芸術劇場」の48回目。世代交代が良い方向で進んでいることを実感させた。法村圭緒振付の『パキータ』は惹きつける魅力を放つ春木友里沙を中心に納得の仕上がり。そして、関西らしいコミカルさも引き出し、多様なダンサーの個性を活かした田上世津子振付『フェアリードール』が秀逸。樫野隆幸支部長のもと、秋には新企画「Art Message」公演も行われ、益々の活動の充実が期待できる。



【略歴】

(公社)日本バレエ協会13支部のひとつとして関西2府5県を統括している。振付者の育成、舞踊手の発掘、創作活動の復興のため昭和38(1963)年に誕生。

昭和49(1974)年 大阪府助成第1回バレエ芸術劇場「白鳥の湖」全幕公演。

昭和57(1982)年 関西ジュニア・バレエ・フェスティバルを若い芽の競演として開始、平成5(1993)年 シニア部門併演。

昭和63(1988)年 サントペテルブルクから指導者を招聘、ワガノワメソード・ゼミナールを開講。

平成3(1991)年 第18回バレエ芸術劇場「シンデレラ」。原典を学び再現するため、ワガノワ名称ロシア・バレエ・アカデミー並びにマリインスキー劇場との共同企画を新展開。

平成14(2002)年 日本初のセルゲイエフ版「海賊」全幕。大阪舞台芸術奨励賞受賞。受け継いだ伝統を継承し、同時に時代に応じた企画を立案しながら活動を行っている。

前田 妃奈

「関西フィルハーモニー管弦楽団 第 333 回定期演奏会」の成果

(まえだ ひな/「かんさいふいるはーもにーかんげんがくだん だいさんびやくさんじゅうさんかいていきえんそうかい」のせいか)

(第 3 部門：洋舞・洋楽)

第 16 回ヘンリク・ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリン・コンクールの覇者の名に相応しい、圧巻のブラームスのヴァイオリン協奏曲の演奏だった。オーギュスタン・デュメイ急病による代役ながら、その重責を果敢な演奏へと繋げる意志も並々ならぬもの。第 1 音から心を捉えて離さない情念を秘め、心技一体たる濃密かつ憧憬的な歌心を送らせた。将来のさらなる活躍が期待される。



(撮影：s.yamamoto)



(撮影：s.yamamoto)

【略歴】

令和 4(2022)年第 16 回ヘンリク・ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリンコンクールで優勝し、国際的に注目を集める新進気鋭のヴァイオリニスト。

平成 25(2013)年全日本学生音楽コンクール全国大会小学校の部第 1 位をはじめ、令和元(2019)年日本音楽コンクール第 2 位及び岩谷賞(聴衆賞)、令和 2(2020)年東京音楽コンクール第 1 位及び聴衆賞など輝かしい受賞歴を誇る。11 歳で関西フィルと共演したのをはじめ、これまでに国内外で協奏曲、リサイタル、室内楽やアウトリーチに積極的に取り組んでいる。

令和 5(2023)年には、およそ 20 カ国、60 地域での演奏会を予定しており、日本でも東京、大阪などでのリサイタルやオーケストラとの共演が予定されている。

現在、小栗まち絵、原田幸一郎、神尾真由子の各氏に師事。

使用楽器は、日本音楽財団より貸与された 1715 年製ストラディヴァリウス「ヨアヒム」。

・・・大阪文化祭賞とは・・・

大阪文化祭賞の創設は昭和38年にまで遡り、これまで多くの芸術家、実演家が受賞しています。関西の著名な芸術家・文化人・ジャーナリストが、第1部門「伝統芸能・邦舞・邦楽」、第2部門「現代演劇・大衆芸能」、第3部門「洋舞・洋楽」の3部門について、公演を審査し、大阪文化祭賞、大阪文化祭奨励賞を選考します。

■この件に関するお問い合わせ先■

【大阪文化祭賞事務局】

公益財団法人関西・大阪21世紀協会 文化事業部 木村

TEL/06-7507-2002 FAX/06-7507-5945